

ません、たくさんの方々がおられるので、1人2分程度でお願い申し上げたいと思います。終了時間は5時50分が厳守と言われておりますので、どうぞたくさんの方々にご発言をいただきながら、建設的な議論をしてまいりたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、どうぞ手を挙げていただきまして、よろしくお願い申し上げます。はい、どうぞ。マイクはよろしいですか。

[埼玉県議会議員・舟橋一浩氏] 貴重なお話あ



りがとうございました。私、埼玉県議会の舟橋と申します。

私の選出している地域は、この前までNHKの連続テレビドラマ小説の舞台になった川越でございまして、小園さんにちょっと

質問したいんですけれども、先ほど、『篤姫』のドラマの後、地域のボランティアの方が観光に協力しているというところでお話があったんですけれども、川越もドラマが終わった後に、まだ今、お客さんが来ていますけれども、ポスト『つばさ』、ドラマの『つばさ』の後、どういうふうに対応していくかというのが非常に喫緊の課題になっていまして、県のほうでもこの前、定例会で質問したんですけれども、ポスト『つばさ』会議というフォローアップ会議を開くようなお話をしていたんですけれども、どうもそれでは足りないような気がしていまして、例えばドラマが終わった後に、お客さんが減少するようなことに対して、鹿児島県ではどういう対策を練られているのか。その点について、一つお聞きしたいと思います。

それから、清水さんに、先ほど、農家レストラン、地元の食材を使った地元の料理を出すようなところが増えてきているという話なんですけれども、イタリアなんかでアグリツーリズムというのがありまして、私も行ったことがあり

ましたけれども、夜遅くまで地元のワインとか食材を使って、非常にきれいなレストランで皆さん食事をしていると。しかも、安価で。そういうのはもちろん埼玉県でもやりたいなというところはあるんですけども、現状はなかなかああいう形になるのは難しいと思いますので、もし今、現時点で、いわゆる農家レストランで好例になっている地域がありましたら、お聞かせ願いたいと思います。その2点です。

[清水] はい。では、小園さん、よろしいですか。

[小園] 川越に昨年行かせていただきまして、うちはイモの産地なんです。川越にイモの定食がたくさんあるというので、ずっと町の中を歩かせていただきました。古い蔵とかが残っていて、いい町だなと。ただ歩道がないので、そういう面は観光客の人はちょっと大変かなと思いましたけれども、いい町になるんじゃないかなと、本当に思いました。

うちはドラマが終了しましても、実は台湾とか韓国でも、このドラマ『篤姫』が放映されておりまして、少しずつ台湾、韓国からもお客様が見えてくださっております。それで次は新幹線だということで、新幹線に向かって動き出しているんですけれども、できるだけ篤姫様をずっと持続させるために、現在、まだ地元の観光ボランティアの方々も、日数は少なくなりましたけれども、出ておられます。それと今和泉で始まった観光ボランティアが鹿児島県中にずっと広がって、7つの地域振興局があるんですけれども、市町村と一緒に連携をとりながら、自分たちの町のよさをもう一回見直そうということで、観光ボランティアがずっと広がってきています。とても楽しみです。

ちょっと答えになったかどうかわかりませんが、よろしいでしょうか。

[清水] 薩摩今和泉のボランティアガイドの方は、私も行ったんですけれども、すごくおもし

ろいんですよ。単に歴史のガイドだけじゃなくて、どこかおいしいところがあるかといったらちゃんと教えてくれるし、お客様、変なお土産買うんだったら、ここでとれたてのやつを買っていったほうがいいですよと。みんな買っていききましたね。だから、すごく親しみやすいし、かといってちょっとボランティアガイドの方で、一方的にしゃべる方もおられるんですが、そうじゃなくて非常にわきまえておられて、まさに鹿児島観光を、僕は変えたと思いますね。非常に素晴らしいと思います。

さて、私も実は与野なものですから、川越はしょっちゅう行って、この間、小江戸の観光協会の50周年があってちょっと話してきたんですけども。やっぱりこれからの川越観光のポイントは、多分あれだけのお客様が来られていて、非常に今あふれているわけです。ただ、圧倒的に日帰りです。それで、ちょっと数が多くて、あの国道もやっと歩行者天国を一部始めていますけれども、まだまだお客様、十分対応できていないと思っています。

ですから、そういう中で、歩行者天国を広げていこうということは非常に素晴らしいことだと思いますが、あとはやっぱり食の問題というのは常にあります。川越ももともとおいもですけども、そのほかいろいろな酒だとか含めて、食の工夫を始めてこられているということは素晴らしいことだと思います。先ほど、農家レストランの話がありましたけれども、イタリアはまさに農家レストランだらけですね。イタリアの格言、食材は動くことはできない。人間は動くことができるけれども、食材は動くことができない。日本の場合には、食材はどんどん動いていくということなんです。最近青森の大間のマグロというのがブランドになりました。まさに地元でとれたマグロを、地元で食する。そこにお客様が集まると。それを実践したのが青森の大間のマグロだと思いますけれども、まさにイタリアのアグリツーリズムは、食材は動かさない。そこにお客様に来ていただく。だから、一番おいしいものは地元でしか食

べられないんだと。ついでに言うと地元のワイン、地元の生ハム、ご承知のとおり、イタリアはこれは特区で始めたんです。いわばいろいろな免許とかそういったものを規制緩和しながら、地元の食材、地元のを大事にしてきた。それがイタリアのグリーンツーリズムだったと思います。

日本でも、今非常に増えてきました。農家レストランはあちこちありますけれども、私がお手伝いしている宮城県には農家レストランのネットワークがありますけれども、そういった形で、農家レストランといっても、単に農家がやるのではなくて、そういったとれたての食材をその場でお出しできるようにする。あるいは、その近くでお出しできるようにするということがポイントだろうと思います。そういった意味で、あちこち非常に多うございます。川越の場合にも、醸造所はありませんけれども、提携をしたお酒をその場で飲ませていただくとか、地ビールを飲ませていただくとか、あるいは、お菓子を横町でいろいろ食べながら歩く。そういった形のものが定着をしてくれば、もっとおもしろくなるのではないかと思います。

では、続いてどうぞ。はい、どうぞ。

〔宮崎県議会議員・武井俊輔氏〕 宮崎県議会の



武井俊輔と申します。大変貴重なお話をありがとうございました。3点それぞれ先生方に、1点ずつご質問を申し上げたいと思います。

まず、順不同になりますが、小園さんからお伺いをいたしたいかと思うんですが、鹿児島のほうは、私どもは隣県ですので非常に身近に感じておりまして、また、観光が非常に元気だなということもよく感じておるんですが、そういった中で、条例の中で、こういったものは観光の活性化ということはもちろん非常